

○愛知淑徳大学大学院心理医療科学研究科規程

(趣旨)

第1条 この規程は、愛知淑徳大学大学院心理医療科学研究科（以下「研究科」という。）が愛知淑徳大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第1条に則り、次の各号に掲げる目的を達成するため、教育課程、授業、研究指導、成績評価等及び運営等について、大学院学則に定めるもののほか必要な事項を定める。

(1) 心理医療科学専攻は、心理学・社会福祉学・言語聴覚学・言語聴覚障がい学・視能訓練学・視能矯正学・健康医科学・臨床医心理学に関する学問分野について、それぞれ高度な専門性をもって、社会の多様な領域における研究開発や実践活動に活用できる人材を育成するため、これらの異質でありながら相互に関連しあう諸分野の協働を視野に入れた教育研究活動を行う。

2 この規程に定めるもののほか、研究科の教育課程等に関し必要な事項は、研究科委員会の定めるところによる。

(教員編成)

第2条 研究科は、第1条に掲げる理念・目的を達するため、教育課程、授業、研究指導及び運営等の必要性に基づき、年齢構成及び関連学部の教員編成の方針を考慮しつつ、以下の要件を備えた教員により編成される。

(1) 人格、識見、研究上の業績、大学及び大学院での教育経験及び運営の能力、学会及び社会における活動並びに心身の健康状態等につき、大学院における専門教育及び研究指導を行う教員たるに適する条件を備えていること。

(2) 研究科の基本理念、教育目標を共有し実践するために、人間と人間の心身の健康並びに健全な社会生活に対する深い洞察力を持ち、研究科を構成する心理学、社会福祉学、言語聴覚学、視覚科学、健康科学及び臨床心理学の各領域の専門性を尊重し、幅広く理解しようとする者であること。

(3) 学生指導、研究科運営に当たっては、研究科及び各領域の教育課程編成の基本方針を尊重し、協働できる者であること。

(研究科委員会)

第3条 研究科委員会は、研究科長が招集し、その議長となる。

2 研究科長に事故あるときは、あらかじめ研究科委員会において、研究科長が指名した委員が議長の職務を行う。

3 研究科委員会は、委員（海外出張中又は休職中の者を除く。）の3分の2以上の出

席がなければ、議事を開くことはできない。

- 4 議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 5 研究科長は、研究科委員会において審議した結果を、学長に報告しなければならない。
- 6 研究科委員会の運営に関して必要な事項は別に定める。

（授業科目、単位数及び履修方法及び研究指導）

第4条 研究科における授業科目、単位数、履修方法及び研究指導は、別表のとおりとする。

- 2 授業科目の単位数の計算の基準は、研究科委員会の意見に基づき学長の定めるところによる。

（指導教員）

第5条 入学又は進学を許可された者には、指導教員を定める。

- 2 指導教員は、2人以上とすることができる。その場合において、主たる指導教員は1人とする。
- 3 前項の場合に必要なときは、従たる指導教員として他の領域の教員をもって充てることができる。

（研究計画書及び研究成果報告書等の提出）

第6条 博士前期課程に入学を許可された者は、指定の期日までに研究計画書及び履修計画書を作成し、所属するコース主任を経て研究科長に提出しなければならない。

- 2 博士後期課程に入学又は進学を許可された者は、指導教員の指導のもとに指定の期日までに研究計画書を作成し、毎年研究科長に提出しなければならない。
- 3 博士後期課程に複数年在籍する学生は、毎年度研究科委員会開催の博士論文中間報告会において研究報告を行うとともに、毎年度末に研究成果報告論文を作成し、前項と同様の手続きを経るものとする。ただし、当該年度に博士の学位請求論文を提出した場合は、この限りではない。
- 4 博士後期課程に在籍する学生の研究指導の実績については、指導教員が半期ごとに研究指導実施報告書を作成し、指定の期間内に研究科長に報告するものとする。

（既修得単位の認定）

第7条 学生が、研究科に入学する前に、本学以外の大学院において修得した単位については、10単位を超えない範囲で博士前期課程修了の要件となる単位として認定することができる。

- 2 前項の規定に関わらず、学生が入学する前に本研究科において修得した単位につ

いては、16単位を超えない範囲で博士前期課程修了の要件となる単位として認定することができる。

3 前2項による単位の認定方法については、研究科委員会の定めるところによる。

(他の研究科の授業科目の履修)

第8条 学生が本学の他の研究科において授業科目を履修し修得した単位については、10単位を超えない範囲で博士前期課程修了の要件となる単位として認定することができる。

2 前項による単位の認定方法については、研究科委員会の定めるところによる。

(他の大学院の授業科目の履修)

第9条 学生が他の大学院で授業科目を履修し、修得した単位については、10単位を超えない範囲で博士前期課程修了の要件となる単位として認定することができる。

2 前項による単位の認定方法については、研究科委員会の定めるところによる。

(みなし認定単位数の上限)

第10条 第6条第1項、第7条第1項及び第8条第1項の規定により研究科において修得したものとして認定できる単位数は、合わせて10単位を超えないものとする。

(学部の授業科目の履修)

第11条 学生は、指導教員及び当該科目担当教員の承認を得て、学部の授業科目を履修することができる。ただし、これにより修得した単位については、課程修了の要件単位には含まないものとする。

(他の大学院又は研究所等における研究指導)

第12条 学生が、他の大学院又は研究所等において、研究指導を受けた場合の認定方法は、研究科委員会の定めるところによる。

(留学)

第13条 前第8条及び第11条の規定は、学生が外国の大学院に留学する場合に準用する。

(改廃)

第14条 この規程の改廃は、研究科委員会の議を経て、研究科長の上申により学長が行う。

附 則

(施行期日)

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

（施行期日）

この規程は、平成26年5月1日から施行する。

附 則

（施行期日）

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

（施行期日）

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

（施行期日）

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

（施行期日）

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

別表

心理医療科学研究科 心理医療科学専攻 博士前期課程

(平成30年度以降入学者)

科目群		授業科目	必修 単位数	選択 単位数	備考	
専門基礎科目	講義科目	心理学研究法特論		2	全コース左のうち 6単位以上選択必修	
		社会福祉特論		2		
		社会福祉方法特論		2		
		発達心理学特論		2		
		教育心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開B)		2		
		臨床心理学研究法特論		2		
		社会福祉調査法演習		2		
	演習科目	心理アセスメント演習		4		
		心理学実験演習		4		
		社会調査法演習		2		
		心理医療科学統計演習 1		2		
		心理医療科学統計演習 2		2		
		心理医療科学英語演習 1		2		
		心理医療科学英語演習 2		2		
専門中心科目	心理学・社会福祉学領域	感情の精神生理学特論		2	心理学・社会福祉学コース は左のうち8単位以上 選択必修	
		認知神経心理学特論		2		
		比較心理学特論		2		
		対人社会心理学特論		2		
		認知発達心理学特論		2		
		コミュニケーション心理学特論		2		
		生涯発達心理学特論		2		
		応用認知心理学特論		2		
		比較発達行動学特論		2		
		社会福祉学領域	地域福祉特論			2
	高齢者福祉特論			2		
	子ども福祉特論			2		
	子ども家庭支援論			2		
	精神保健福祉特論			2		
	医療福祉倫理学特論			2		
	社会福祉法特論			2		
	医療福祉特論			2		
	医療科学コース	言語聴覚学領域	言語心理学特論			2
			言語聴覚病理学特論 1			2
			言語聴覚病理学特論 2			2
			言語聴覚療法特論			2
言語発達障害学演習				2		

科目群		授業科目	必修 単位数	選択 単位数	備考		
専門 中心 科目	医療 科学 コース	発声発語障害学演習		2	医療科学コースは左の うち8単位以上選択必修		
		高次脳機能障害学演習		2			
		聴覚障害学演習		2			
		摂食嚥下障害学演習		2			
		聴覚生理学特論		2			
		視覚心理学特論		2			
		生理光学特論		2			
		視覚病理学特論		2			
		視覚障害学特論		2			
		視覚心理学演習		2			
		視能検査学演習		2			
		視能矯正学演習		2			
		視覚障害学演習 1		2			
		視覚障害学演習 2		2			
		健康医科学特論		2			
	スポーツ健康特論		2				
	健康発達看護学特論		2				
	リハビリテーション栄養特論		2				
	環境健康科学特論		2				
	地域栄養活動演習		2				
	精神保健演習		2				
	加齢医学演習		2				
	栄養科学演習		2				
	生理機能検査学演習		2				
	スポーツ認知心理学特論		2				
	臨床心理学コース	臨床 心理 学 領域	臨床心理学特論 1 (青年期・成人期の心理臨床)			2	臨床心理学コースは左 のうち12単位以上選択 必修
			臨床心理学特論 2 (児童期の心理臨床)			2	
			家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践A)			2	
			地域支援心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践B)			2	
			臨床心理面接特論 1 (心理支援に関する理論と実践)			2	
			臨床心理面接特論 2 (力動論と行動論)			2	
			学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開A)			2	
			投映法特論			2	
		グループアプローチ特論		2			
		障害児発達心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)		2			
		精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開A)		2			

科目群		授 業 科 目	必 修 単 位 数	選 択 単 位 数	備 考		
		心身医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開B)		2			
		非行・犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)		2			
		産業精神保健特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)		2			
		心の健康教育特論 (心の健康教育に関する理論と実践)		2			
		臨床心理査定演習 1 (心理的アセスメントに関する理論と実践)		2			
		臨床心理査定演習 2 (臨床現場と心理アセスメント)		2			
		臨床心理基礎実習 1		1			
		臨床心理基礎実習 2a		1			
		臨床心理基礎実習 2b		1			
		心理実践実習 1a		2			
		臨床心理実習 1a (心理実践実習 1b)		2			
		臨床心理実習 1b (心理実践実習 1c)		2			
		臨床心理実習 2a (心理実践実習 3)		1			
		臨床心理実習 2b		1			
		心理実践実習 2a		2			
		心理実践実習 2b		2			
		心理実践実習 2c		2			
		研究科目	心理学・社会福祉学コース	心理学領域		心理学研究 1	
心理学研究 2				2			
心理学研究 3				2			
心理学研究 4				2			
社会福祉学領域	社会福祉研究 1			2			
社会福祉研究 2			2				
社会福祉研究 3			2				
社会福祉研究 4			2				
医療科学コース	言語聴覚学領域		言語聴覚学研究 1		2	医療科学コースは左のうち8単位以上選択必修	
			言語聴覚学研究 2		2		
			言語聴覚学研究 3		2		
			言語聴覚学研究 4		2		
	視覚科学領域		視覚科学研究 1		2		
			視覚科学研究 2		2		
			視覚科学研究 3		2		
			視覚科学研究 4		2		
	健康科学領域	健康科学研究 1		2			
		健康科学研究 2		2			
		健康科学研究 3		2			
		健康科学研究 4		2			

科目群		授 業 科 目	必 修 単 位 数	選 択 単 位 数	備 考
	臨床心理学 コース	臨床心理学 領域		2	臨床心理学コースは左の うち4単位以上選択必修
				2	

心理医療科学研究科博士前期課程を修了するためには、1年又は2年以上在学して上記カリキュラム表の修了要件欄に掲げる要件を各コース毎で満たした上、自由履修単位（心理医療科学研究科前期課程のすべての科目）を加えて合計30単位以上修得し、修士論文の作成と審査に合格しなければならない。ただし、各コースともに在学期間に関しては、研究科委員会によって特に優秀な学生または優れた実績を持つと認められた者は、特例として1年以上在学すれば修了を認定することができる。

別表

心理医療科学研究科 心理医療科学専攻 博士前期課程

(平成29年度入学者)

科目群		授業科目	必修 単位数	選択 単位数	備考	
専門基礎科目	講義科目	心理学研究法特論		2	全コース左のうち 6単位以上選択必修	
		社会福祉特論		2		
		障害学特論		2		
		社会福祉方法特論		2		
		発達心理学特論		2		
		精神科医療特論		2		
		コミュニティ心理学特論		2		
		人格心理学特論		2		
		教育心理学特論		2		
		教育心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開B)		2		
		障害児発達心理学特論		2		
		精神医学特論		2		
		心身医学特論		2		
		臨床心理学研究法特論		2		
		演習科目	社会福祉調査法演習			2
			心理アセスメント演習			4
			心理学実験演習			4
社会調査法演習			2			
心理医療科学統計演習 1			2			
心理医療科学統計演習 2			2			
心理医療科学英語演習 1			2			
心理医療科学英語演習 2			2			
専門中心科目	心理学領域	感情の精神生理学特論		2	心理学・社会福祉学コース は左のうち8単位以上 選択必修	
		認知神経心理学特論		2		
		比較心理学特論		2		
		対人社会心理学特論		2		
		認知発達心理学特論		2		
		コミュニケーション心理学特論		2		
		生涯発達心理学特論		2		
		応用認知心理学特論		2		
		比較発達行動学特論		2		
		社会福祉学領域	地域福祉特論			2
	高齢者福祉特論			2		
	子ども福祉特論			2		
	子ども家庭支援論			2		
			精神保健福祉特論			2
		医療福祉倫理学特論		2		

科目群		授業科目	必修 単位数	選択 単位数	備考	
専門中心科目		社会福祉法特論		2	医療科学コースは左のうち8単位以上選択必修	
		医療福祉特論		2		
	言語聴覚学領域	言語心理学特論		2		
		言語聴覚病理学特論 1		2		
		言語聴覚病理学特論 2		2		
		言語聴覚療法特論		2		
		言語発達障害学演習		2		
		発声発語障害学演習		2		
		高次脳機能障害学演習		2		
		聴覚障害学演習		2		
		摂食嚥下障害学演習		2		
		聴覚生理学特論		2		
	医療科学コース	視覚科学領域	視覚心理学特論			2
			生理光学特論			2
			視覚病理学特論			2
			視覚障害学特論			2
			視覚心理学演習			2
			視能検査学演習			2
			視能矯正学演習			2
			視覚障害学演習 1			2
	視覚障害学演習 2		2			
	健康科学領域	健康科学領域	健康医科学特論			2
			スポーツ健康特論			2
			健康発達看護学特論			2
			リハビリテーション栄養特論			2
			環境健康科学特論			2
			地域栄養活動演習			2
			精神保健演習			2
			加齢医学演習			2
			栄養科学演習			2
			生理機能検査学演習			2
	スポーツ認知心理学特論		2			
	臨床心理学コース	臨床心理学領域	臨床心理学特論 1			2
臨床心理学特論 1 (青年期・成人期の心理臨床)				2		
臨床心理学特論 2				2		
臨床心理学特論 2 (児童期の心理臨床)				2		
臨床心理学特論 3				2		
家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践A)				2		
臨床心理学特論 4				2		
臨床心理学特論 4				2		
					臨床心理学コースは左のうち12単位以上選択必修	

科目群		授業科目	必修 単位数	選択 単位数	備考		
		地域支援心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践B)		2			
		臨床心理面接特論 1		2			
		臨床心理面接特論 1 (心理支援に関する理論と実践)		2			
		臨床心理面接特論 2		2			
		臨床心理面接特論 2 (力動論と行動論)		2			
		学校臨床心理学特論		2			
		学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開A)		2			
		投影法特論		2			
		投映法特論		2			
		グループアプローチ特論		2			
		臨床心理査定演習 1		2			
		臨床心理査定演習 1 (心理的アセスメントに関する理論と実践)		2			
		臨床心理査定演習 2		2			
		臨床心理査定演習 2 (臨床現場と心理アセスメント)		2			
		臨床心理基礎実習 1a		1			
		臨床心理基礎実習 1		1			
		臨床心理基礎実習 1b		1			
		臨床心理基礎実習 2a		1			
		臨床心理基礎実習 2b		1			
		臨床心理実習 1a		1			
		臨床心理実習 1b		1			
		臨床心理実習 2a		1			
		臨床心理実習 2b		1			
研究科目	心理学・ 社会福祉学 コース	心理学領域	心理学研究 1		2	心理学・社会福祉学コース は左のうち8単位以上選択 必修	
			心理学研究 2		2		
			心理学研究 3		2		
			心理学研究 4		2		
	社会福祉学 コース	社会福祉学 領域	社会福祉研究 1		2		
			社会福祉研究 2		2		
			社会福祉研究 3		2		
			社会福祉研究 4		2		
	医療科学 コース	言語聴覚学 領域	言語聴覚学研究 1		2		医療科学コースは左の うち8単位以上選択必修
			言語聴覚学研究 2		2		
			言語聴覚学研究 3		2		
			言語聴覚学研究 4		2		
	視覚科 領域	視覚科 領域	視覚科学研究 1		2		
			視覚科学研究 2		2		

科目群		授業科目	必修 単位数	選択 単位数	備考	
		視覚科学研究 3		2	臨床心理学コースは左 のうち4単位以上選択必 修	
		視覚科学研究 4		2		
		健康 科学 領域	健康科学研究 1			2
			健康科学研究 2			2
	健康科学研究 3			2		
	健康科学研究 4			2		
	臨床 心理 学 コース	臨床 心理 学 領域	臨床心理学研究 1			2
			臨床心理学研究 2			2

心理医療科学研究科博士前期課程を修了するためには、1年又は2年以上在学して上記カリキュラム表の修了要件欄に掲げる要件を各コース毎で満たした上、自由履修単位（心理医療科学研究科前期課程のすべての科目）を加えて合計30単位以上修得し、修士論文の作成と審査に合格しなければならない。ただし、各コースともに在学期間に関しては、研究科委員会によって特に優秀な学生または優れた実績を持つと認められた者は、特例として1年以上在学すれば修了を認定することができる。

別 表

心理医療科学研究科 心理医療科学専攻 博士後期課程 研究指導
(平成30年度入学者)

コース	領域	研究指導教員
心理学 コース ・ 社会福祉学	心理学領域	小川 一美
		斎藤 和志
		坂田 陽子
		清水 遵
		吉崎 一人
	社会福祉学領域	伊藤 春樹
		佐々木 政人
瀧 誠		
医療科学 コース	言語聴覚学領域	天野 成昭
		井脇 貴子
		船崎 康広
		宮田 Susanne
		吉田 敬
	視覚科学領域	柏井 聡
		川嶋 英嗣
		高橋 啓介
		高橋 伸子
	健康科学領域	安藤 富士子
		池上 康男
		後藤 秀爾
	学臨 コース 臨床 心理	臨床心理学領域
古井 景		

心理医療科学研究科博士後期課程を修了するためには、原則として3年以上在学して上記科目中、指導教員の特殊研究を含む12単位以上を修得し、必要な研究指導を受けたうえで、博士論文の審査および試験に合格しなければならない。

別表

心理医療科学研究科 心理医療科学専攻 博士後期期課程

(平成30年度以降入学者)

科目群		授業科目	必修 単位数	選択 単位数	備考	
心理学・ 社会福祉学 コース	心理学 領域	心理学特殊研究Ⅰa	2		原則として3年以上在学して左記科目中、指導教員の特殊研究を含む12単位以上を修得すること	
		心理学特殊研究Ⅰb	2			
		心理学特殊研究Ⅱa	2			
		心理学特殊研究Ⅱb	2			
		心理学特殊研究Ⅲa	2			
		心理学特殊研究Ⅲb	2			
	社会福祉学 領域	社会福祉学特殊研究Ⅰa	2			原則として3年以上在学して左記科目中、指導教員の特殊研究を含む12単位以上を修得すること
		社会福祉学特殊研究Ⅰb	2			
		社会福祉学特殊研究Ⅱa	2			
		社会福祉学特殊研究Ⅱb	2			
		社会福祉学特殊研究Ⅲa	2			
		社会福祉学特殊研究Ⅲb	2			
医療科学 コース	言語聴覚学 領域	言語聴覚学特殊研究 (言語心理学) 1		2	原則として3年以上在学して左記科目中、指導教員の特殊研究を含む12単位以上を修得すること	
		言語聴覚学特殊研究 (言語聴覚学) 1		2		
		言語聴覚学特殊研究 (言語発達障害学) 1		2		
		言語聴覚学特殊研究 (聴覚神経科学) 1		2		
		言語聴覚学特殊研究 (言語発達学) 1		2		
		言語聴覚学特殊研究 (失語症学) 1		2		
		言語聴覚学特殊研究 (言語心理学) 2		2		
		言語聴覚学特殊研究 (言語聴覚学) 2		2		
		言語聴覚学特殊研究 (言語発達障害学) 2		2		
		言語聴覚学特殊研究 (聴覚神経科学) 2		2		
		言語聴覚学特殊研究 (言語発達学) 2		2		
		言語聴覚学特殊研究 (失語症学) 2		2		
		言語聴覚学特殊研究 (言語心理学) 3		2		
		言語聴覚学特殊研究 (言語聴覚学) 3		2		
		言語聴覚学特殊研究 (言語発達障害学) 3		2		
		言語聴覚学特殊研究 (聴覚神経科学) 3		2		

科目群	授 業 科 目	必 修 単 位 数	選 択 単 位 数	備 考
医療科学コース	言語聴覚学特殊研究 (言語発達学) 3		2	
	言語聴覚学特殊研究 (失語症学) 3		2	
	言語聴覚学特殊研究 (言語心理学) 4		2	
	言語聴覚学特殊研究 (言語聴覚学) 4		2	
	言語聴覚学特殊研究 (言語発達障害学) 4		2	
	言語聴覚学特殊研究 (聴覚神経科学) 4		2	
	言語聴覚学特殊研究 (言語発達学) 4		2	
	言語聴覚学特殊研究 (失語症学) 4		2	
	言語聴覚学特殊研究 (言語心理学) 5		2	
	言語聴覚学特殊研究 (言語聴覚学) 5		2	
	言語聴覚学特殊研究 (言語発達障害学) 5		2	
	言語聴覚学特殊研究 (聴覚神経科学) 5		2	
	言語聴覚学特殊研究 (言語発達学) 5		2	
	言語聴覚学特殊研究 (失語症学) 5		2	
	言語聴覚学特殊研究 (言語心理学) 6		2	
	言語聴覚学特殊研究 (言語聴覚学) 6		2	
	言語聴覚学特殊研究 (言語発達障害学) 6		2	
	言語聴覚学特殊研究 (聴覚神経科学) 6		2	
	言語聴覚学特殊研究 (言語発達学) 6		2	
	言語聴覚学特殊研究 (失語症学) 6		2	
視覚科学領域	視覚科学特殊研究 (視能矯正学) 1		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚病理学) 1		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚障害学 a) 1		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚心理学 a) 1		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚心理学 b) 1		2	
				原則として3年以上在学して左記科目中、指導教員の特殊研究を含む12単位以上を修得すること

科目群	授業科目	必修 単位数	選 択 単位数	備 考
医療科学コース	視覚科学特殊研究 (視能検査学) 1		2	
	視覚科学特殊研究 (視能矯正学) 2		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚病理学) 2		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚障害学 a) 2		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚心理学 a) 2		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚心理学 b) 2		2	
	視覚科学特殊研究 (視能検査学) 2		2	
	視覚科学特殊研究 (視能矯正学) 3		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚病理学) 3		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚障害学 a) 3		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚障害学 b) 3		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚心理学 a) 3		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚心理学 b) 3		2	
	視覚科学特殊研究 (視能検査学) 3		2	
	視覚科学特殊研究 (視能矯正学) 4		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚病理学) 4		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚障害学 a) 4		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚障害学 b) 4		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚心理学 a) 4		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚心理学 b) 4		2	
	視覚科学特殊研究 (視能検査学) 4		2	
	視覚科学特殊研究 (視能矯正学) 5		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚病理学) 5		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚障害学 a) 5		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚障害学 b) 5		2	

科目群		授 業 科 目	必 修 単 位 数	選 択 単 位 数	備 考	
医療科学コース	視覚科学領域	視覚科学特殊研究 (視覚心理学 a) 5		2	原則として3年以上在学して左記科目中、指導教員の特殊研究を含む12単位以上を修得すること	
		視覚科学特殊研究 (視覚心理学 b) 5		2		
		視覚科学特殊研究 (視能検査学) 5		2		
		視覚科学特殊研究 (視能矯正学) 6		2		
		視覚科学特殊研究 (視覚病理学) 6		2		
		視覚科学特殊研究 (視覚障害学 a) 6		2		
		視覚科学特殊研究 (視覚障害学 b) 6		2		
		視覚科学特殊研究 (視覚心理学 a) 6		2		
		視覚科学特殊研究 (視覚心理学 b) 6		2		
		視覚科学特殊研究 (視能検査学) 6		2		
		健康科学領域	健康科学特殊研究 (加齢医学) 1			2
			健康科学特殊研究 (バイオメカニクス) 1			2
	健康科学特殊研究 (栄養科学) 1			2		
	健康科学特殊研究 (加齢医学) 2			2		
	健康科学特殊研究 (バイオメカニクス) 2			2		
	健康科学特殊研究 (栄養科学) 2			2		
	健康科学特殊研究 (加齢医学) 3			2		
	健康科学特殊研究 (バイオメカニクス) 3			2		
	健康科学特殊研究 (栄養科学) 3		2			
	健康科学特殊研究 (加齢医学) 4		2			
健康科学特殊研究 (バイオメカニクス) 4		2				
健康科学特殊研究 (栄養科学) 4		2				
健康科学特殊研究 (加齢医学) 5		2				
健康科学特殊研究 (バイオメカニクス) 5		2				
健康科学特殊研究 (栄養科学) 5		2				

科目群		授業科目	必修単位数	選択単位数	備考
医療科学 コース	健康科学領域	健康科学特殊研究 (加齢医学) 6		2	
		健康科学特殊研究 (バイオメカニクス) 6		2	
		健康科学特殊研究 (栄養科学) 6		2	
臨床心理学 コース	臨床心理学領域	臨床心理学特殊研究Ⅰa	2		原則として3年以上在学して左記科目中、指導教員の特殊研究を含む12単位以上を修得すること
		臨床心理学特殊研究Ⅰb	2		
		臨床心理学特殊研究Ⅱa	2		
		臨床心理学特殊研究Ⅱb	2		
		臨床心理学特殊研究Ⅲa	2		
		臨床心理学特殊研究Ⅲb	2		

別 表

心理医療科学研究科 心理医療科学専攻 博士後期課程 研究指導
(平成29年度入学者)

コース	領域	研究指導教員
心理学 コース ・ 社会福祉学	心理学領域	小川 一美
		斎藤 和志
		坂田 陽子
		清水 遵
		吉崎 一人
	社会福祉学領域	伊藤 春樹
		佐々木 政人
医療科学 コース	言語聴覚学領域	天野 成昭
		井脇 貴子
		船崎 康広
		宮田 Susanne
		吉田 敬
	視覚科学領域	柏井 聡
		川嶋 英嗣
		川瀬 芳克
		高橋 啓介
		高橋 伸子
	健康科学領域	安藤 富士子
		池上 康男
	臨床 コース 心理学	臨床心理学領域
西出 隆紀		
古井 景		
米倉 五郎		

心理医療科学研究科博士後期課程を修了するためには、原則として3年以上在学して上記科目中、指導教員の特殊研究を含む12単位以上を修得し、必要な研究指導を受けたうえで、博士論文の審査および試験に合格しなければならない。

別表

心理医療科学研究科 心理医療科学専攻 博士後期期課程

(平成29年度入学者)

科目群		授業科目	必修 単位数	選択 単位数	備考	
心理学・ 社会福祉学 コース	心理学 領域	心理学特殊研究Ⅰa	2		原則として3年以上在学して左記科目中、指導教員の特殊研究を含む12単位以上を修得すること	
		心理学特殊研究Ⅰb	2			
		心理学特殊研究Ⅱa	2			
		心理学特殊研究Ⅱb	2			
		心理学特殊研究Ⅲa	2			
		心理学特殊研究Ⅲb	2			
	社会福祉学 領域	社会福祉学特殊研究Ⅰa	2			原則として3年以上在学して左記科目中、指導教員の特殊研究を含む12単位以上を修得すること
		社会福祉学特殊研究Ⅰb	2			
		社会福祉学特殊研究Ⅱa	2			
		社会福祉学特殊研究Ⅱb	2			
		社会福祉学特殊研究Ⅲa	2			
		社会福祉学特殊研究Ⅲb	2			
医療科学 コース	言語聴覚学 領域	言語聴覚学特殊研究 (言語心理学) 1		2	原則として3年以上在学して左記科目中、指導教員の特殊研究を含む12単位以上を修得すること	
		言語聴覚学特殊研究 (言語聴覚学) 1		2		
		言語聴覚学特殊研究 (言語発達障害学) 1		2		
		言語聴覚学特殊研究 (聴覚神経科学) 1		2		
		言語聴覚学特殊研究 (言語発達学) 1		2		
		言語聴覚学特殊研究 (失語症学) 1		2		
		言語聴覚学特殊研究 (言語心理学) 2		2		
		言語聴覚学特殊研究 (言語聴覚学) 2		2		
		言語聴覚学特殊研究 (言語発達障害学) 2		2		
		言語聴覚学特殊研究 (聴覚神経科学) 2		2		
		言語聴覚学特殊研究 (言語発達学) 2		2		
		言語聴覚学特殊研究 (失語症学) 2		2		
		言語聴覚学特殊研究 (言語心理学) 3		2		
		言語聴覚学特殊研究 (言語聴覚学) 3		2		
		言語聴覚学特殊研究 (言語発達障害学) 3		2		
		言語聴覚学特殊研究 (聴覚神経科学) 3		2		

科目群		授業科目	必修 単位数	選択 単位数	備考	
医療科学コース	言語聴覚学領域	言語聴覚学特殊研究 (言語発達学) 3		2		
		言語聴覚学特殊研究 (失語症学) 3		2		
		言語聴覚学特殊研究 (言語心理学) 4		2		
		言語聴覚学特殊研究 (言語聴覚学) 4		2		
		言語聴覚学特殊研究 (言語発達障害学) 4		2		
		言語聴覚学特殊研究 (聴覚神経科学) 4		2		
		言語聴覚学特殊研究 (言語発達学) 4		2		
		言語聴覚学特殊研究 (失語症学) 4		2		
		言語聴覚学特殊研究 (言語心理学) 5		2		
		言語聴覚学特殊研究 (言語聴覚学) 5		2		
		言語聴覚学特殊研究 (言語発達障害学) 5		2		
		言語聴覚学特殊研究 (聴覚神経科学) 5		2		
		言語聴覚学特殊研究 (言語発達学) 5		2		
		言語聴覚学特殊研究 (失語症学) 5		2		
		言語聴覚学特殊研究 (言語心理学) 6		2		
		言語聴覚学特殊研究 (言語聴覚学) 6		2		
		言語聴覚学特殊研究 (言語発達障害学) 6		2		
		言語聴覚学特殊研究 (聴覚神経科学) 6		2		
		言語聴覚学特殊研究 (言語発達学) 6		2		
		言語聴覚学特殊研究 (失語症学) 6		2		
	視覚科学領域	視覚科学特殊研究 (視能矯正学) 1		2		原則として3年以上在学して左記科目中、指導教員の特殊研究を含む12単位以上を修得すること
		視覚科学特殊研究 (視覚病理学) 1		2		
		視覚科学特殊研究 (視覚障害学 a) 1		2		
		視覚科学特殊研究 (視覚障害学 b) 1		2		
		視覚科学特殊研究 (視覚心理学 a) 1		2		

科目群	授業科目	必修 単位数	選択 単位数	備考
医療科学コース	視覚科学特殊研究 (視覚心理学 b) 1		2	
	視覚科学特殊研究 (視能検査学) 1		2	
	視覚科学特殊研究 (視能矯正学) 2		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚病理学) 2		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚障害学 a) 2		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚障害学 b) 2		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚心理学 a) 2		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚心理学 b) 2		2	
	視覚科学特殊研究 (視能検査学) 2		2	
	視覚科学特殊研究 (視能矯正学) 3		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚病理学) 3		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚障害学 a) 3		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚障害学 b) 3		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚心理学 a) 3		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚心理学 b) 3		2	
	視覚科学特殊研究 (視能検査学) 3		2	
	視覚科学特殊研究 (視能矯正学) 4		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚病理学) 4		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚障害学 a) 4		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚障害学 b) 4		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚心理学 a) 4		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚心理学 b) 4		2	
	視覚科学特殊研究 (視能検査学) 4		2	
	視覚科学特殊研究 (視能矯正学) 5		2	
	視覚科学特殊研究 (視覚病理学) 5		2	

科目群	授 業 科 目	必 修 単 位 数	選 択 単 位 数	備 考			
医療科学コース	視覚科学領域		2				
			2				
			2				
			2				
			2				
			2				
			2				
			2				
			2				
			2				
			2				
			2				
			2				
		医療科学コース	健康科学領域			2	原則として3年以上在学して左記科目中、指導教員の特殊研究を含む12単位以上を修得すること
						2	
	2						
	2						
	2						
	2						
	2						
	2						
	2						
	2						
	2						
	2						
	2						
	2						

科目群		授業科目	必修 単位数	選択 単位数	備考
医療科学 コース	健康科学 領域	健康科学特殊研究 (バイオメカニクス) 5		2	
		健康科学特殊研究 (栄養科学) 5		2	
		健康科学特殊研究 (加齢医学) 6		2	
		健康科学特殊研究 (バイオメカニクス) 6		2	
		健康科学特殊研究 (栄養科学) 6		2	
臨床心理学 コース	臨床心理 学領域	臨床心理学特殊研究Ⅰa	2		原則として3年以上在学 して左記科目中、指導教員 の特殊研究を含む12単位 以上を修得すること
		臨床心理学特殊研究Ⅰb	2		
		臨床心理学特殊研究Ⅱa	2		
		臨床心理学特殊研究Ⅱb	2		
		臨床心理学特殊研究Ⅲa	2		
		臨床心理学特殊研究Ⅲb	2		

別 表

心理医療科学研究科 心理医療科学専攻 博士後期課程 研究指導
(平成28年度入学者)

コース	領域	研究指導教員
心理学 コース ・ 社会福祉学	心理学領域	斎藤 和志
		清水 遵
		吉崎 一人
	社会福祉学領域	伊藤 春樹
		佐々木 政人
瀧 誠		
医療科学 コース	言語聴覚学領域	天野 成昭
		井脇 貴子
		船崎 康広
		宮田 Susanne
		吉田 敬
	視覚科学領域	柏井 聡
		川嶋 英嗣
		川瀬 芳克
		高橋 啓介
		高橋 伸子
	健康科学領域	安藤 富士子
		池上 康男
臨床 コース 心理学	臨床心理学領域	後藤 秀爾
		神野 秀雄
		古井 景
		米倉 五郎

博士後期課程においては、単位修得すべき履修科目は開講しない。ただし、指導教員による毎週120分相当の研究指導を受けなければならない。

また、次の各号のすべてを満たした者に対して、課程の修了を認定し、博士の学位を授与する。

- ① 博士後期課程に3年以上在学すること
- ② 必要な研究指導を受けること
- ③ 学位論文の審査に合格すること
- ④ 学位試験に合格すること

ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた者については、博士課程に3年（博士前期課程または修士課程を修了した者は、その2年の在学期間を含む）以上在学すれば、修了を認定することができる。